

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例
-------	--

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

香川県高松市

○学校名

高松市立鶴尾小学校

○学校のURL

<http://www.edu-tens.net/syoHP/turuoHP/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】 1年2学級、2～6年1学級 【特別支援学級】 4学級
【合計】 11学級

○児童生徒数

【全児童数】 182人（平成25年11月21日現在）
（内訳：1年生39人、2年生23人、3年生33人、4年生29人、5年生30人、6年生28人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

人権尊重の精神を基盤として、自ら考え実行できる、人間性豊かなたくましい子どもを育てる

- ① どの子どもが、豊かに学び、発達できる学校づくり
- ② 人権の知識と人権感覚を身につけることができる学校づくり
- ③ 自己となかまとふるさとを誇ることができる学校づくり

【校内現職教育の研究主題】

自分の未来を切り拓く子どもづくり

一人一人の自尊感情を高め、豊かな人権感覚を育む指導の在り方
—— 確かな学力を育む授業改善となかまづくりを通して ——

【人権・同和教育目標】

一人一人の自尊感情を高めるとともに、豊かな人権感覚を育む人権・同和教育の実践



3. 特色ある実践事例の内容

◆ 確かな学力を育む「授業改善部会」の取組

本校では、児童が自分の思い描く未来を切り拓き、一人一人の夢を実現する力を身に付けるために、どの児童もが確かな学力を付けることを大切にしている。そのためには、一人一人が大切にされ、お互いのよさが発揮できる授業づくりに取り組み、自尊感情や自己効力感を育むことが重要であると考えている。そこで、授業改善の取組を『わかる できる 役に立つ学習プラン』と名付け、4つのポイントに視点を当てて実践を重ねている。

「わかる できる 役に立つ学習プラン」
ポイント1 児童の意欲・関心がつながっていく
 単元計画の工夫

◎ 見通しがもてるように

- ・学習を通して何を身に付けさせたいのか

どんな内容か
 どんな表現で
 何を考えさせたいか
 だれにどんな発信をするのか

・キャリア教育

意欲格差をなくすこと

まず、ポイント1は、「どの児童もが意欲・関心がつながっていく学習計画の工夫」である。キーワードは、「見通しがもてるように」とした。学習を通して何を身に付けさせたいのかということを中心に分析し、その学習を既習事項や関連教科、日常の学校生活、家庭生活等とつなぐことによって、より見通しの持てる学習となるようにした。

「わかる できる 役に立つ学習プラン」
ポイント2 分かりやすい課題の設定

◎ 分かったことが自分で分かるように

児童にとって分かりやすい課題 → 分かり方の予測 → 的確な支援

自分の考えをもって学習に取り組める支援

- ・既習事項を整理して掲示
- ・ポートフォリオ
- ・日常生活とつないで
- ・振り返りをして、自分の理解度を意識させる

↓
 家庭での復習に

自分の考えがもてる

ポイント2は、「分かりやすい課題の設定」である。キーワードは、「分かったことが自分で分かるように」とした。課題を分かりやすく、明確にすることで、児童の分かり方が予測できる。分かり方が予測できれば、どの児童にも自分の考えを持たせるための的確な支援ができると考えた。

「わかる できる 役に立つ学習プラン」
ポイント3 自尊感情を高め、
 確かな学力を育む交流 **重点化**

(1) 課題解決のきっかけを見つける交流

- ・交流のねらいをはっきりさせる
- ・思考の様子を可視化する

(2) 基礎・基本内容を定着させるための交流

- ・全体交流の後に
- ・基礎・基本の確かめ
- ・わかった、できた、役に立ったという実感

ポイント3は、「どの児童もが自尊感情を高め、確かな学力を育む交流」である。学習活動の中で友達と交流して学び合うことを重視した。交流の在り方を「課題解決のきっかけを見つける交流」（交流することによって、学習内容を広げるのか、深めるのか、まとめるのかなどのねらいをはっきりさせておく）と「基礎・基本の内容を定着させる交流」（全体交流後に行う本時に押さえたい基礎・基本の内容が理解できたかどうかを確かめ合う交流）の2通りを考え、実践した。

「わかる できる 役に立つ学習プラン」
ポイント4 「家庭学習」と「つるおっ子チャレンジ」

◎ 自分のためになる自主学習の習慣の素地を身につける家庭学習

◎ 基礎学力をつけるつるおっ子チャレンジ

- ・年間5回
- ・基礎・基本の内容
- ・テスト形式

やればできる
 学習に対する自己効力感

家庭学習の記録表

ポイント4は、「家庭学習」と「つるおっ子チャレンジ」である。学習の成果を高めるには、授業を大切にするとともに、家庭での学習習慣を身に付けることが重要である。4月に全家庭を訪問し、「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の重要性を説明したり、2学期初めの1週間を家庭学習週間と位置付け、家庭学習のサポートをしたりすることで、少しずつ意欲的に家庭学習に取り組む児童が増えてきている。

◆ 豊かな人間性を育む「心の教育部会」の実践

生活科・総合的な学習の時間を中心とした総合単元的学習は、「心の教育」を推進していくための重要な機会であると捉えている。そのような学習を、「心を育てる鶴尾っ子プラン」と名付け、学年ごとにテーマを決めて学習に取り組んでいる。

心を育てる鶴尾っ子プラン(6年を例に)

時期 6～7月と11～12月の2回

方法 総合単元的学習(体験を重視した人権学習)

ねらい 部落差別の不合理などに気づき、差別を解消しようとする集団を育成する。(なかまづくり)

総合的な学習 → 「差別に負けず生き抜く姿・文化を築く」
「太鼓職人さんの思い」「洪染一揆、団結・非攻撃的主張」
「解放令と公正な行動の姿」「水平社と自分にできること」
「人権尊重への自分の思いを、人権を考える会で伝える」

学活 → 自己分析(カードで強み発見、伝え合う力)
社会的スキル(トラブルの解決の仕方)

音楽 → 人権への思いを、太鼓演奏で表現する

道徳 → 「努力、人とつながる」「友と目標に向けた努力を」

各学年の心を育てる鶴尾っ子プラン

1年 みんな なかよし

2年 みつけよう自分や友だちのよいところ

3年 目を向けよう 鶴尾の町や人の思いに

4年 知ろう 考えよう 行動しよう
～相手の立場に立って～

5年 考えよう 人権問題について

6年 高めよう 人権意識 見直そう 自分自身を

どの学年においても、体験を重視した人権学習を行い、単なる知識(科学的認識)の学習にとどまらず、実感を伴った正しい理解につなぐことを大切にしている。また、学年間の系統性に留意し、具体的な場で人権を守る実践行動ができる力の育成を図っている。



1年 遊びの体験



3年 鶴尾の町探検



2年 香川中部養護学校の友だちとの交流

4年 香川中部養護学校の友だちとの交流



5年 ハンセン病回復者との交流

6年 太鼓職人との交流

●夢を育てる鶴尾っ子ガイダンス



●子どもたちの主体的な活動を核とした集会活動

●新たな出会いや発見のあるエンカウンター



1年では、特に、「遊びの体験」を重視し、だれとでもなかよくしようとする態度の育成を図っている。2年では、香川中部養護学校の友達との交流を通して、友達の気持ちを考え、なかよく共に生きようとする態度の育成を図っている。3年では、鶴尾の町探検を通して、鶴尾の町のよさに触れ、鶴尾の町を誇りに思う気持ちを育てている。

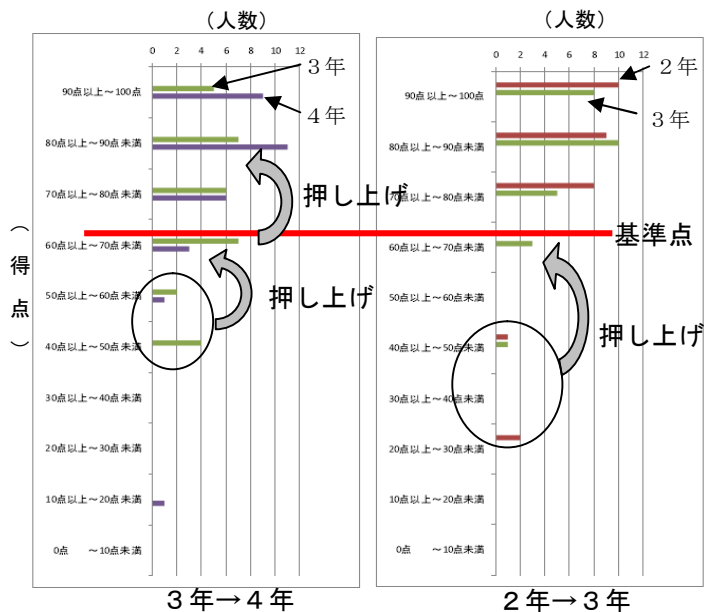
4年では、香川中部養護学校の友達との交流を通して、お互いの違いを前向きに受け止め、助け合おうとする態度の育成を図っている。5年では、ハンセン病回復者の方との交流を通して、差別や偏見に気づき、改善していこうとする態度の育成を図っている。6年では、太鼓職人の方との交流や歴史学習を通して、先人の生き様に触れ、その生き方の素晴らしさを感じる学習を展開していく中で、差別の不合理性に気づき、日常生活の中の偏見や差別を解消していこうとする集団を育てていこうと考えている。

また、児童の心に働きかける活動として、鶴尾っ子プラン以外にも、鶴尾っ子ガイダンスや集会活動、エンカウンターなどの活動を重視している。

4. 実践事例の実績、実施による効果

◆ 授業改善における取組の実績

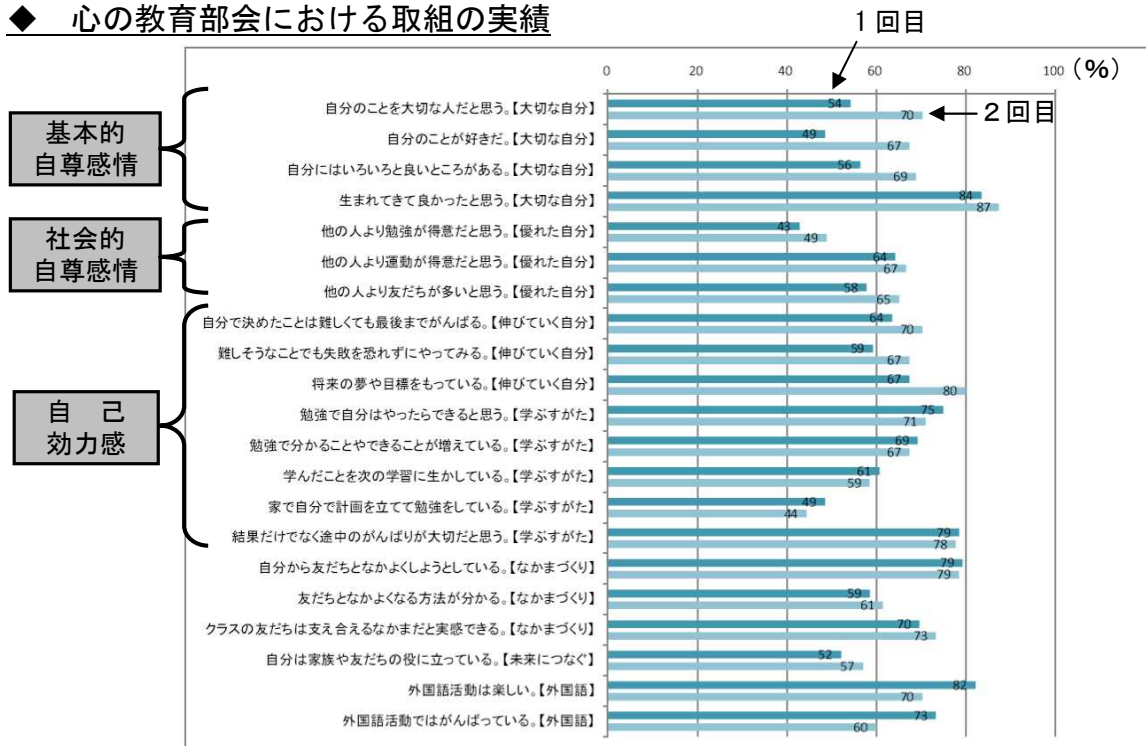
県版テスト（国語）の点数分布の変化



*…本県の多くの小学校が実施している標準的なテスト

本校の課題として、中学年から成績にばらつきが見られ、それがその後解消できずに学力格差の広がりにつながる実態があった。「分かる・できる・役に立つ学習プラン」を中心に、授業改善に取り組んできた結果、中学年の県版テストの結果を前の学年と比べてみると、学力面で課題を有する児童を学校で設定した基準点近くに押し上げることができたことがわかった。これは、授業改善と学習習慣形成の取組の成果が現れたものと考えている。

◆ 心の教育部会における取組の実績

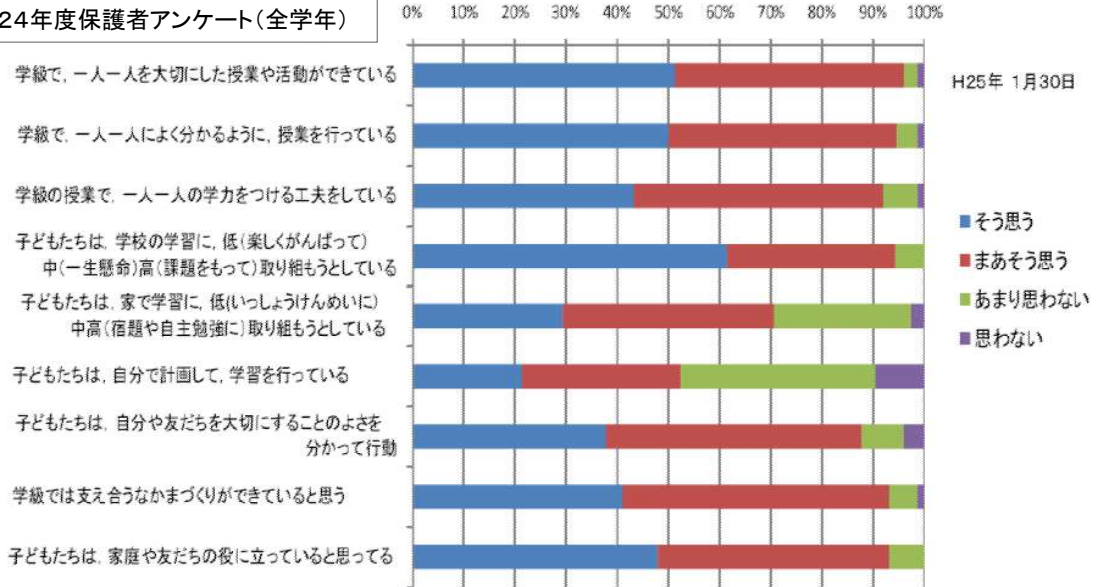


年間2回実施している「心のアンケート」では、基本的自尊感情の部分について、どの項目でも数値が伸びていることがうかがえる。これは、人権学習強調月間として年間2回実施する「心を育てる鶴尾っ子プラン」（教科・道徳・特別活動等をつないだ人権総合学習）における自他を大切にした交流や活動等、集団での協同体験を通して「基本的自尊感情」が高揚したことによると考えられる。今後もこのプランに基づいた学習を通して、様々な人権課題の解決を目指した「自分の在り方や生き方」を学び、人権を守る実践行動につながる人権感覚の育成を図っていきたい。

5. 実践事例についての評価

◆ 保護者の意識について

平成24年度保護者アンケート(全学年)

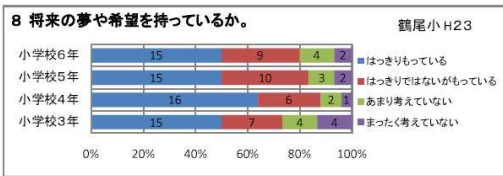
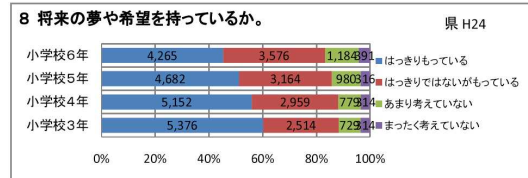
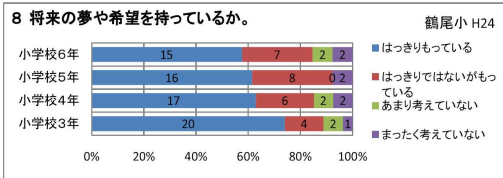


H25年 1月30日

「一人一人を大切にした授業」「よく分かる授業」「学力をつける工夫」及び「なかまづくり」に関する項目は肯定的な意見が多い。しかし、本校が目指す「自己実現する力」の中でも特に大切にしたい「自主的・自立的な学習」に関する項目では「そう思わない」との回答がやや多く、今後の課題と言える。学校での学習と家庭学習をつなぐ意義や家庭学習の進め方について、保護者に対してインセンティブを与えられるような働きかけ等の工夫をしていきたい。

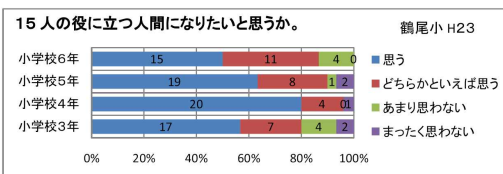
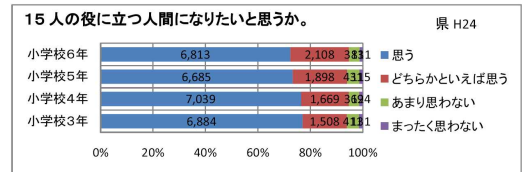
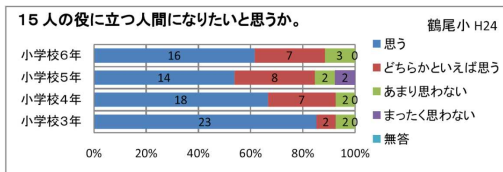
◆ 県学習状況調査の児童質問紙で比較した本校児童の意識について

① 自己効力感に関係すると考えている項目の一部



県平均より高いが、「考えていない」を選ぶ児童の割合も多い。どの児童も夢や希望が持てるよう鶴尾っ子ガイダンスや個別の教育相談を今後更に強めたい。

② 人権感覚、未来につなぐ進路意識などに関係すると考えている項目の一部



昨年と比べて大きな変化はない。キャリア教育の視点に立った授業や、保護者や地域の人との関わりを通して、肯定的な人間関係を構築することで、他者や社会に対する効力感を培っていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

高松市立鶴尾小学校

すべての児童が潜在力のエンパワーメントを図り、豊かに学び、豊かに成長・発達できる権利を保障する人権尊重の精神に立った学校づくりに取り組んでいる。

「現代社会を生き抜く力」「他者とともに社会の中で生き抜く力」の獲得が児童の課題であることから、自尊感情、自己効力感を高め、学ぶ力や豊かな人間性を基盤とした「自己実現する力」を育む実践を行っている。

確かな学力を育むための授業改善では、「わかる、できる、役に立つ学習プラン」により、一人一人が大切にされ、お互いのよさが発揮できる授業を実践し、自尊感情や自己効力感を育んでいる。また、豊かな人間性を育む心の教育の推進では、「心を育てる鶴尾っ子プラン」により、自他を大切にした交流や活動、集団での共同体験を重視した人権学習を行い、単なる知識（科学的認識）の学習にとどまらず、実感を伴った正しい理解につながることを大切にして、具体的な場で実践できる力の育成を図っており注目される。